



サロン・あべの8月の出会い

平成22年8月1日（日）、

〈サロン・あべの〉8月の出会いは恒例の「あべのカーニバル」での〈さろん亭〉の開店です。

今年で第37回となる「あべのカーニバル」ですが、気になったのはやはり当日の天気です。各地で猛暑が続いていましたが、この日は風のある晴れた良い天気となりました。

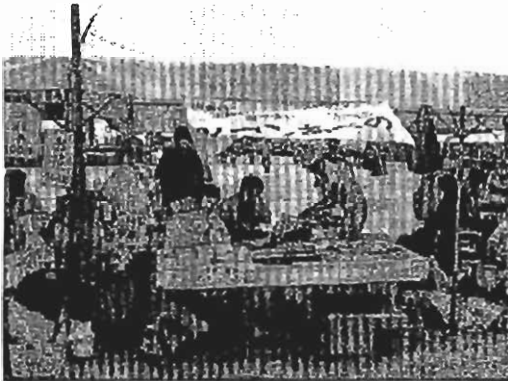
当日の午後12時ごろから、〈さろん亭〉の開店準備のため、「あべのカーニバル」の会場である市立工芸高校のグラウンドへ向かいました。グラウンド内の「なんでも市どおり」の中では多くの店が出店します。その一角に黄色と白のラインのテントの〈さろん亭〉の中では皆さんから提供していただいた品物がところ狭しと並べられて

いきます。猛暑の中、熱中症にならないように各自、水分補給を行いました。

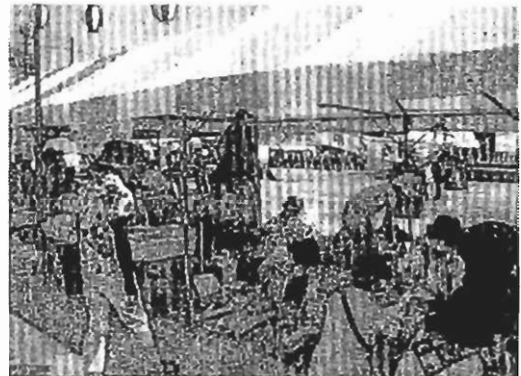
〈さろん亭〉の開店準備中もお客様が立ち寄り、掘り出し物がないかと品定めがなされます。そして午後3時、いよいよ

〈さろん亭〉が開店しました。店頭においてお客さんとの値引き交渉などの真剣なやりとりが交わされます。中でも石鹸や洗剤やタオルなどは、人気商品で、まとめ買いをされる方も多く見受けられます。

グラウンド中央では、地元の阿倍野区内の高校の吹奏学部の演奏やダンスなどの公演がなされ、カーニバルの「さろん亭」を盛り上げてくれます。暑い中、多くの方がお立ち寄りくださり、テント内にあつた沢山の品物も時間と共に売れてゆきました。そして無事に閉店となりました。



「さろん亭」風景



毎年のことなのですが、品物を寄贈していただいた方、前日の値札付けや品物の搬入や当日の販売のお手伝いや後片付けなど本当に多くの皆さんにお世話になりました。有り難うございました。今年も多くの皆さんに支えられた「さろん亭」でした。

(山村貴司)

サロン・あべの毎月の感謝

カンパ、飲み物、お菓子等と、バザー用品のご寄贈、お手伝い等ありがとうございます。

カスターネット(高橋幸子・宮脇信子・松村美鈴)、井上昭一、上田昭子、上田宏子、加賀谷正、桑田加代子、小島敬大、小西京子、目和子、澤田妙子、高尾澄男、竹下秀樹、千葉政子、千代松真佐子、辻本輝子、富田慶子・十一、中谷邦子、小林秀人、西川和代、久木浩、眞殿香與女、山村貴司、山村久子、その他の方、(敬称略)

残暑厳しい日々が続きます。

皆様にはお変わりございませんか。

この度は、あべのカーニバルに参加するバザーのお店「さろん亭」に、品物のご寄贈やその品物の値段付け、搬送、販売等にご協力を賜りまして、ありがとうございます。

お陰さまで、「さろん亭」は、品物豊富な店開きをすることができました。多くの方々に来店いただき、お買い上げや差し入れなどいろいろとありがとうございます。御礼申し上げますと共に、感謝申し上げます。

「さろん亭」売上金六三、二〇五円

〈さろん・あべの〉運営委員会



計報

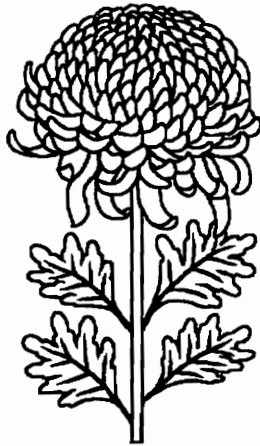
この春に体調を崩されていた、「サロン・あべの」紙編集者・石田律様が、8月16日に永眠されました。病氣も快癒近くリハビリにも励まれているとお伺いしていましたので、急な訃報に驚きました。

〈サロン・あべの〉が今日まで、多くの皆さまにご参加いただいたり、ご支援、ご協力を賜ってこられましたのは、「サロン・あべの」紙の伝達力のお陰と思っております。その編集者の思い入れの大きな分、入院された後はあたふたしましたが、体調が元に戻られたらサロン活動に参加してくださると考えていました。涼しくなったら、秋になったらと石田さんの復帰を心待ちにしていました。その思いは委員ばかりでなく、サロンに参加くださる皆さま方からも聴かせていただけていました。が、病状が急変してご逝去されました。〈サロン・あべの〉にとりましては、本当に大きな存在を失いましたが、残された委員は今後も変わりなくサロン活動を続けていこうと励ましています。

故石田律様にこれまでに賜りました恩恵に感謝申し上げますと共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

サロン紙の編集は故石田様のようににはゆきませんが、ご寄稿くださる方々のご協力を賜りまして発行してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（サロン・あべの）運営委員会



晴れのち晴れ

稲垣恵雄

■茗荷と冥加

茗荷も冥加も「みょうが」と読むが、意味は全く異なる。でもこの二つの異なった熟語に共通点、相通じるものがある。

その共通点を書く前に「茗荷」と「冥加」の意味を書いておきたい。前者は高さ50cm程で、ショウガ科の宿根草。そして茗荷の子とって夏、根本に小さな目を出す。この芽は薄緑色で香りが高く、吸物や刺身のつまに用いる。後者はしらずしらずのうちに神仏の加護を受けること、平たく言えば目に見えないおかげということである。今は亡き母が存命中によく「ご飯つぶ一つぶでも粗末にはいけません。冥加のことを思って残さずに頂きなさい」と言っていたことを思い出す。



さて「茗荷」と「冥加」の共通点だが、実は浅学非才のために分からなかった。それで某氏にインターネットで調べてもらうことにした。

お釈迦様の弟子に仏道に優れていて、悟りまで開いた周梨槃特（スリハンドグ）という人がいた。しかしどうい
うわけか、弟子は自分の名前を忘れてしまう。不憫に思ったお釈迦様は、弟子の名前を書いた札を首からかけさせるのだが、どうしても忘れてしまうのである。とうとう弟子

が死ぬまで名前を覚えることができなかった。弟子の死後、お墓に見たこともない草が生えていた。それが茗荷でなぜかこの草も神仏にご縁があり、邪気を払うと言われている。このように茗荷と冥加は音読みが同じだけでなく「神仏のご加護」の共通点があるということが分かった。



昆虫の脳



この一ヶ月いろんなことがありました。「サロン・あべの」をずっと支えてくれていた石田律さんを喪うことも経験しました。私の父の容体も以前よりずっと悪くなり思うこともたくさんあります。

でも、いざキーボードを前にすると何も打てませんね。心の整理がまだできていないのでしよう。何を書いたらいいのかわからなくなります。

しかし何か書かなければいけません。毎月何かを書くということが、二十数年前に石田さんにした約束だったのですから。

ところで、昨日「大昆虫博」という展示会を見に行きました。長男がどうしても見たいと言いますので。

驚いたのは、昆虫にも脳があるということでした。それも単純な脳ではなくて、いろいろなことを記憶したり、仲間とのコミュニケーションができたという優れた脳らしいのです。

しかも、すごく小さな脳なのです。もともと虫は小さいものだから、脳も小さいのは当然なのですが、もう人間の脳よりもずっとずっと少ない数の脳細胞で素晴らしい働きができるそうなのです。

そこで私が考えたのは、もちろん滑稽で非科学的なことには違いないのですが、なぜこんな小さな虫のこんな小さな脳でも、身体を動かせ、記憶し、仲間とのコミュニケーションができるのに、なぜ私の父の脳にはそれができないのかということでした。

数ヶ月前だったか、父の脳をCTスキャンで撮ったら、その脳は小さくなっていました。医学書に載っている写真とそっくりなもので、頭のなかに空洞ができています。うな感じでした。

それを見なければ、まだ希望が持てたかもしれません。脳のなかは見えなかったのですから、また良いことも奇跡的に起こるかもしれないと思うこともできたように思います。

しかし、あの写真を見せられたとき、私のなかで何かが崩れたような感じがしました。「ああ、もうダメなんだな」と思いました。もう脳自体が縮んでしまっているのですから、どんな薬を飲んだところで脳が戻ることはないでしょう。

ただ脳が縮んだといっても、ゼロになっただけではないのです。素人目にはよくわからないのですが、減ったとしても何割かでしょう。昆虫の脳と較べたら、きっと何千倍も大きいはず。脳細胞の数だって昆虫の脳のきつと何万倍も残っているのではないでしょう。

昆虫は（いま長男は三匹か、それ以上のカブトムシとクワガタムシを飼っているのですが）食べものの臭いがわかり、毎日たくさん食べているようですが、認知症が進んでもなお虫よりもたくさん脳細胞をもっているはずの父は、なぜ食べないようにな

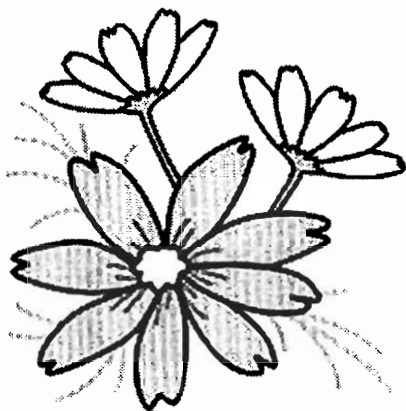
ってしまったのでしょうか。

自分の父を昆虫と較べるなんて、私には変なかもしれませんが。いや、やっぱり書くべきではなかったかもしれませんが。

でも、いまは午前二時を過ぎています。今夜、原稿を出してしまわなければ、また皆さんに迷惑をかけてしまいます。

ですので、今回はこれで良しとさせていただきます。では、お休みなさい。

(知)



「重度障害者の自立生活」

邦子、 **…ん歳の手習い。**

定藤邦子

私の夫は、介護なしには生活できない中途障害者でした。その夫が最も影響を受けたのが、アメリカの自立生活運動でした。

「人の助けを借りて15分で衣服を着て外出し、社会参加できる障害者は、自分で衣服を着るのに2時間かかるために家にいるほかにはない障害者よりも自立している」というガベン・デジョングの自立生活思想は要介護障害者となった夫にとって衝撃的でした。なぜならば、衣服の着脱衣などの身辺介助や移動介助を受けている自分は、妻や

ボランティアに依存して自立していないのではないかと考えていたからです。しかし、介助者の介助を受けながらも、障害者自らが生活主体者となって生きる行為が自立生活であるという自立理念は、夫や多くの重度障害者にインパクトを与えました。それは、1970年代後半から1980年代のことでした。

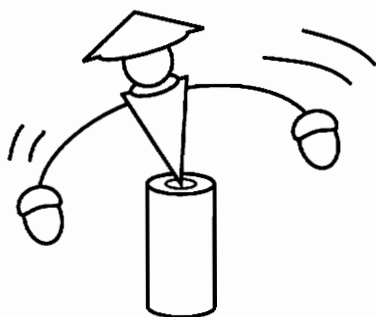
大阪では、アメリカの自立生活運動が紹介される以前から、大阪青い芝の会による障害者自立生活運動がありました。その運動に影響を受け、青い芝の会以外の障害者の自立生活者も生まれていました。自立生活のための何の保障もない時代だったので、ほとんどが学生のボランティア介助によるものでした。当事、私は青い芝の会など何も知りませんでした。青い芝の会の介助者たちは、大学を中退して障害者の支援をする人も多かったです。私にはどうして他者のためにそこまで支援できるのか不思議でした。私の場合など、家族の介助だけで、他者のことを考えるなどおよびもつかなかったからです。

私の夫と大阪青い芝の会との出会いは、

1987年に夫がケア付き住宅のセミナーに参加してからです。それ以後、お互いに障害者の自立生活という共通の目標をもちながら、大阪の他の仲間とともに運動を推し進めていきました。介護問題、バリアフリーのための活動、グループホームの制度化など多くの問題がありました。問題はなかなか解決しませんでした。自立生活運動の名のもとにそれぞれが当事者としてがんばっていました。1991年には、大阪で「第2回自立生活問題研究集会」が開かれ、重度の障害者を含む多くの障害者で会場は埋め尽くされました。まだ、自立生活のための制度も整っていませんでしたが、前には自立という何かしら明るい希望がありました。私は夫の介助者として、遠くで皆の活動のみるだけでしたが、障害当事者が主体となってエネルギーに活動していたのを覚えています。

時代も移り変わる中で、障害者の公的保障もある程度導入されるようになり、今の障害者に自立生活運動を実感できない現状があるらしいです。数年前に、自立生活センターナビ代表の川嶋雅恵さんは、「障害

当事者ががんばらなければ、健全者は動かない。障害者が闘っていかうという意識がなければ、ただ、自分の生活だけを考えて生きていくのでは、単に自分の自立だけで終わってしまいます。それでは支援者が疲れてしまいます。障害当事者が自分だけでなく、他の人の生活も一緒に考えていくとか、自分の生活はこんなにいんですよと他の人にも影響を与えるような生活を築きあげなければ、健全者もついてきません。」と、障害当事者の姿勢が大切であると語ってくれました。かつての他者をも動かすような自立生活運動のエネルギーが今も求められているように思います。



お知らせ

〈サロン・あべの〉10月の出会い

○内 容：「資源よ、よみがえれ・生ゴミで土作り」

土作り」

○お客さま：木下 宣弘氏

○日 時：10月16日(土) 午後1時～4時

○場 所：育徳コミュニティセンター、2階・研修室

「大阪市阿倍野区阪南町5-15-28、06-6621-1901」

○会 費：なし

○問合せ先：TEL06-6691-1028

(富田慶子)

美智子のこんな話

岸田美智子

熱いっ!!

対府オールラウンド交渉!!

8月3日、毎年行われる障大連の大阪府に対するオールラウンド交渉がありました! 障大連に所属する大阪府下の各団体が、一堂に結集する迫力のある場です。当日の参加者は約500人だったそうです。

第1日目は介護、施設、GH・住宅、自立支援、作業所の各部署との交渉を行いました。介護の部分が一番時間が長く、午前中は介護の部分で意見が白熱しました。

盲ろう者の通訳介助について

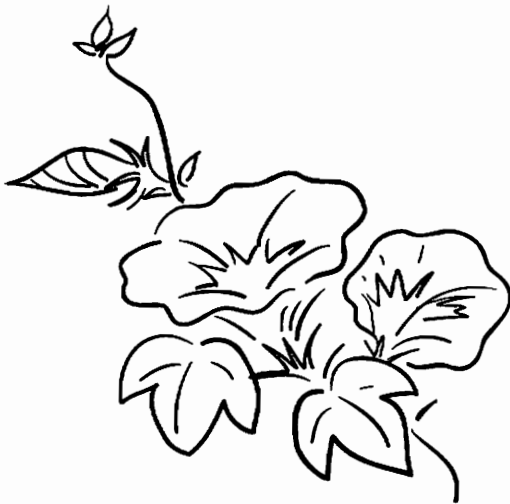
1日8時間以内という制限があり、8時間を使い切った後に体調が悪くなり病院にいきたくてもいけない、とか友人が亡くなってもお通夜にもいけないなどの切実な声があがっていました。その必要性によって柔軟な使い方が出来ないのか、ぜひ検討してもらいたいものです。

入院時コミュニケーションサポート事業

入院時の身体介護は、病院の役割とされていますが実際の対応は全く不十分で、特に知的の方の多動に対応できないため入院を拒否されたり、言語障害や緊張がある脳性まひ等の対応も慣れていないため、介助者同行を病院側が要求してくるケースもあるという厳しい現実が報告されていました。

体調が悪くなったときは、指示が出来なくなるので慣れた介助者がぜひとも必要です。命に関わる制度が十分でないことは、地域での自立生活を維持することが出来な

くなることに繋がっていきます。1日でも早く安心した地域での自立生活を支えていく制度になっていって欲しいものです。最後に、地域の障害者運動を支えてきた作業所制度が今年度で打ち切られることになりそうです。大阪府は今後、パブリックコメントを求めていくと言っていますが、地域での障害者運動を根こそぎつぶしかねない動きだと危機感を持った熱い一日でした。



中村かずみ

家族でアメリカ!

ケンタッキー州滞在記

11

この夏休み、ケンタッキー時代にご近所でお世話になったSさんご家族で帰国されました。お迎えに行った空港では、我が家と同じようにレキシントンでS家にお世話になった面々が集まってちよつとした同窓会。近くのスーパ―の様子や、学校の先生の近況などに花が咲き、特に同じ団地に住んでいた私たちは改装の様子など聞いて、ますます当時の住まいを懐かしく思い出しました。

そこは団地と言っても流石アメリカで、リスがはね回る敷地内にプールやテニスコ

ート・レストランまであって、日本でも高級住宅街でした。建物はちよつと古くても、広い広いリビングで子供たちはつい走る、跳ねる。足音が階下の人に申し訳ないなんて思っている間に、もつと迷惑なことをやらかしてしまいましたーお風呂のオーバ―フローです。

欧米の風呂は溢れると大変、日本人の様に浴槽の外で身体を洗わないので、床に排水溝がないのです。だからお湯を出したまま忘れると、階下まで漏れてしまう。分かっていたことなので、子供たちに散々言い聞かせ、障害で説明の通じない長男にも

1 シャワーで身体を洗う

2 お湯を張る

つまりお湯を溜める間ずっと居る様に、と何度も教えて見張っていたのですが、気のゆるむ頃にやられてしまいました。

夕方の料理中にドンドンと凄い勢いで玄関に人が。"水が水が"と騒がれて、見ればじゆうたん貼りの廊下が水浸しーいつの間にかお風呂がずっぱなしになっていたのです。下はルームシェアの女子大生3人で優しい人達でしたが、それでも英語の

人が傾れ込んできて、自分のせいだと分かったカズキは号泣するしで、もうそれは大騒ぎでした。

片付けがまた大変で、だってアメリカ人は靴を脱ぎません。屋外から引きずってきたホースを手に、当然土足で上がり込んで来るのですーヤメテー! 咄嗟にスーパ―の袋を差し出してお願いしたら、大男のメンテナンズさん達は意外に快く、靴の上にかサカサいうビニール袋を履いて作業をしてくれました。そのホースであらかた水をとつたら、巨大ドライヤーを何個も置いて送風で乾燥。2日ほど夜も昼も、爆音の中で暮らす羽目になりました。昼間は学校に行く主人や子供たちはともかく、一日中在宅の私は耐えかね避難、ご近所でお茶をこちそうになりましたっけ。

あちこち迷惑をかけて申し訳なかったですが、滅多にない体験ではありました。おまけにそれ以来、メンテナンズのおじさん達と仲良くなつて、外でよく声をかけてもらいました。夜中でもさつとホース&ドライヤーが運ばれて来たあたり、アメリカ人でも良くある失敗なのでしょうか?

洗面台とトイレも一緒になったアメリカの浴室。寝室の奥とリビング横に2カ所あったのを大人用・子供用と分けて使っていました。お風呂に入ったらお兄ちゃんがトイレ始めて臭いーと揉めたり(笑)、同時にシャワーを使うと温水がでなくなってしまう。溢れさせたのはさすがに一度きりでも、その他の使い勝手にはなかなか慣れません。次男のゴウジは、日本に帰って浴槽につかった時に思わず涙がでたんだとか。

たった半年、と思って訪ねたアメリカでしたが、子供たちには長い長い半年だった様です。

〈映画紹介〉

「となりのトトロ」(1988年 86分)

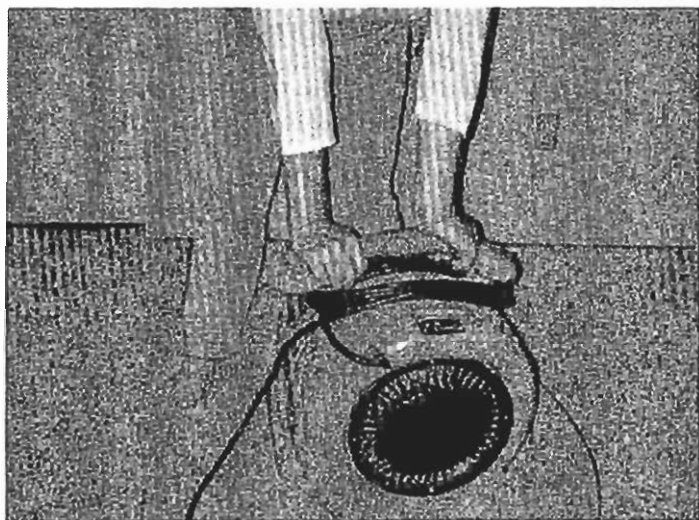
ご存じ日本製アニメですが、アメリカでも劇場公開されて大人気。でも作中の、親子の入浴場は物議をかもしましたそうです。アメリカでは家族一緒に入るところか、幼児の入浴を手伝う時にも大人は服を着たままなんだとか(お父さんが入るとザバーツとお湯が溢れるところも、驚かれたかも?)



▶ 9月の下校後、

団地のプールで遊ぶ子供たち。
ちよっと寒い?

噂の巨大ドライヤーです。
音がうるさい!!



「となりのトトロ」パッケージ写真です。



10月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」10月の出会い

日時：10月17日(日)午後1時30分～4時
内容：「自分の唄が好きっね～ん」
～心通い合うこの広場から音楽活動、そしてみんなで夢を語り合おう！～
ゲスト：寺口伸哉(しんや)氏(ライブハウス演奏ヤストリートライブ活動)
場所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3
会費：なし
問合せ先：淀川区社会福祉協議会(ボランティア・ビューロー)
☎06-6394-2900

■「サロン・にしよど」10月の出会い

日時：10月23日(土)
内容：未定
ゲスト：未定
場所：西淀川在宅サービスセンター「ふくいく」
大阪市西淀川区千舟2-7-7
会費：なし
問合せと申込み先：☎090-9864-9678(中本)

■「サロン「アイ」10月の出会い

日時：10月9日(土)午後1時30分～4時
内容：聴覚障がい者と手話
ゲスト：本一裕さん
場所：生野区在宅サービスセンター「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪生野区勝山北3-13-20
会費：なし
問合せ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー)
☎06-6712-3101
○サロン「アイ」便りの音訳テープあります。
ご希望の方は西浦まで。
☎06-6757-8574(西浦)

■「サロンにし」10月の出会い

日時：10月9日(土)午後2時～4時

内容：鍵盤楽器演奏の音楽や歌を楽しもう!!
ゲスト：グループ「あふろでいて」
場所：西区在宅サービスセンター(西区役所6階)第1会議室
大阪市西区新町4-5-14、06-6539-8075
会費：なし
問合せ先：宮脇淳090-3949-6973

■《てくてくすみよし》10月の出会い

日時：10月9日(土)午前9:30
内容：ECOアンドBBQ
場所：大和川西公園河川敷でBBQ
参加費：1500円
申込み締切り日：10月5日(火)
申込みと問合せ先：山本篤江☎06-6692-8411
携帯☎090-5168-5977

■「サロン・つるみ」10月の出会い

日時：10月3日(日)午後1時30分～4時30分
内容：「楽しい親子三代フェスティバル」
～木芝居・腹話術・オカリナ・時吟を三世代で～
ゲスト：加藤義一・良子、竹上寛子・佳那・真由、の皆さま方
場所：鶴見区民センター3階[大阪市鶴見区横堤5-3-15]
会費：なし
問合せ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」10月はお休みです

♪♪ 奥田真祐美のシャンソン ♪♪
～ 秋のリサイタルのご案内 ～
♡愛のうた 人生のうた♡
日時：11月3日(水)
開場=15時30分
開演=16時
会場：サンケイホールブリーゼ
大阪市北区梅田2-4-9ブリーゼタワー7階
演奏：西川真&弦楽アンサンブル
料金：前売=6,000円、当日=6,500円
主催：Office Okuda
*お問い合わせ・チケットのお申込み
TEL・FAX：06-6692-8774(奥田真祐美)
Eメール：mayumi25@pearl.ocn.ne.jp

<サロン・あべの>Vol.291 発行：平成22年(2010年)9月18日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/「サロン・あべの」でも検索できます